

**テーマ：**持続可能な健康を目指すために

**関連の深いコース：**環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

1. このテーマを学ぶために

地球環境問題は地球上で暮らす人間にとって重要な課題です。“持続可能性”という言葉が人間環境学部のキーワードとなっていますが、“持続可能な社会を目指す”ということは、“人間がいかにか健康で快適な生活を維持していくことができるか”ということに他なりません。地球環境が破壊されると人間の健康に大きな影響を与えるでしょう。考えてみると、環境問題は健康問題と言い換えることができるかもしれません。

日本において、自殺者数は1998年から2011年度まで連続して14年間3万人を超えていました。現在は3万人を割っていますが、いまだ多くの方が自ら命を絶っています。日本の自殺の特徴として、若い年代、あるいは働き盛りの男性の自殺が非常に多いことです。15歳から34歳の若年層においては死因のトップとなっています。昨年度は女性の自殺が大幅に増加しました。大学を卒業して働き始めた時、生活環境は大きく変化します。仕事の負荷に加えて、上司や同僚との関わりによるストレスも大きくなるしかかかってきます。そのような変化にどのようにして対応し、精神的な健康を保っていくかということもメンタルヘルス上重要な課題となってくるでしょう。現代社会においては、環境を幅広くとらえるようになってきました。産業保健の現場では、働く人を取り巻く環境として、空気環境や照明、建物などのいわゆる“ハード面”だけではなく、人と人との関わり合いといった“ソフト面”の環境もストレスの原因として重視していかなければなりません。

衛生・公衆衛生学ⅠⅢⅣでは、現代社会における健康問題をテーマに取り上げ、様々な知識を身につけていきます。人間環境学部の5つのコースとの関連でいえば、環境サイエンスコースが中心となります。しかし、正しい健康知識を備えることは、すべての人にとって不可欠であると考えますので、コースにこだわらずに履修して頂いてかまいません。また、自然環境科学の基礎（生物学）（サイエンスカフェⅡ）では、人の身体や病気について勉強します。健康を維持していくために自分の身体の構造や働きを知ることがとても大切です。衛生公衆衛生学と共通するテーマもありますので、合わせて履修してください。

関連科目としては、医療、倫理などについて学ぶ「現代社会論Ⅲ」、健康観について学ぶ「環境健康論」、高齢化社会における雇用、労働環境などについて学ぶ「労働環境論」、労働者を守る安全衛生法や労働基準法などの法律について学ぶ「労働環境法」、健康や高齢社会、生命倫理について学ぶ「生命の現在と倫理」などがあげられます。少しでも人間の健康に関係している科目は衛生・公衆衛生学と接点があるといえるでしょう。

2. テーマに関連した推奨科目

環境健康論	I II	生命の現在と倫理	現代社会論	III	
労働環境論	I II III	労働環境法	環境科学	I II	
環境倫理学		心理学	I II	倫理学	I II